



WPS Cloud Pro

建設業の2024年問題を解説

クラウド型オフィスで実現するDXのススメ



confidential

目次

建設業界の2024年問題とは？	3ページ
働き方改革関連法の適用で“変わること”	4~6ページ
建設業界ではどのようなことが課題になっている？	7~9ページ
建設業働き方改革加速化プログラム 国土交通省	11ページ
生産性向上を叶える鍵は「ICT活用」による効率化	12ページ
建設DXの処方箋“クラウド型オフィス”	13ページ
クラウド型オフィスの建設DXイメージ	14~15ページ
優れたコスパと機能性を誇る「WPS Cloud Pro」	16~17ページ
WPS Cloud Proで実現する“生産性向上”と“人材育成”	18~21ページ
2024年に向けて早めの準備を	22ページ
お問い合わせ	23ページ

建設業界の2024年問題とは？



建設業は**2024年4月**までに
労働環境の整備を進める必要がある

働き方改革関連法案の適用

まず始めに本資料のテーマである「建設業界の2024年問題」の概要を解説します。前提として、これには日本政府が主導のもと推進されている「**働き方改革関連法案**」が大きく関係しています。働き方改革関連法案とは、労働者の労働環境を改善するために制定された様々な法律のことです。2019年より順次施行されている同法案ですが、建設業においては環境改善に多くの時間がかかることから適用まで5年間の猶予が与えられていました。その猶予が、2024年4月に期限を迎えます。したがって建設業界は働き方改革関連法案の適用に対応できるよう、制度の開始期限である2024年4月までに労働環境の整備を進めておかなければなりません。そのためには様々な課題が山積しており、それらを総称して「建設業界の2024年問題」と呼んでいます。

働き方改革関連法の適用で“変わること”

1. 労働時間の上限規制

法定労働時間を超えた分の労働を時間外労働といいます。いわゆる残業のことです。これまで時間外労働は労働基準法の条文で明記されていませんでした。それが今回の適用によって「**時間外労働は月45時間かつ年360時間まで**」の上限が罰則付きで制定されます(図1)。また、特別な事由があり、かつ労使間で合意が取れている場合に限り上限を超えることが許されますが、図2のように上限があります。これらの上限を超えて労働を行なった場合、罰則（懲役6か月以下または30万円以下の罰金）が科される可能性があります。

時間外労働は

月45時間 かつ **年360時間まで**

図1

特別な事情があっても、

- **年720時間以内** (休日労働を含まない)
- **時間外労働+休日労働 = 単月100時間未満**
- **時間外労働+休日労働 = 2~6カ月平均で月80時間以内**
- **時間外労働が 月45時間 を超過できる月は 年6回まで**

図2

働き方改革関連法の適用で“変わること”

2. 同一労働同一賃金

「同一労働同一賃金」とは、**正社員や非正規雇用労働者などの雇用形態に関係なく、同一の職場で同一の仕事を行う従業員には、同一の賃金を支払う必要があるという考え方**のことです。同一労働同一賃金では、各種手当についても雇用形態に関わらず支給する必要があります。例えば「無事故手当」や「皆勤手当」「家族手当」などの手当も、正社員か否かに関係なく平等に支給することが義務付けられます。



働き方改革関連法の適用で“変わること”

3. 時間外労働の割増賃金率引き上げ

2023年4月から中小企業を対象に適用される「時間外労働の割増賃金率引き上げ」も建設業界に与える影響が大きいという理由から2024年問題に含まれています。その内容は、**時間外労働が月60時間を超える場合の割増賃金率が25%から50%に引き上げられる**というもの。残業が常態化しているような労働環境の場合、人件費が大幅に増大する恐れがあります。

月60時間を超える時間外労働の割増賃金率が、

25% ▶ **50%**

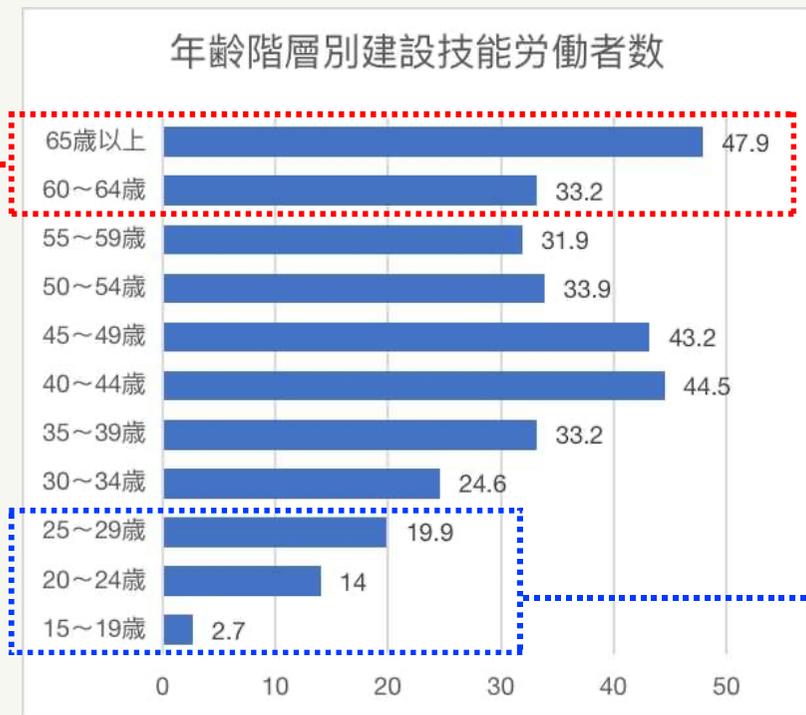
※時間外労働のみが対象。休日労働と深夜労働の割増賃金率に変更はなし

働き方改革関連法案の適用に向けて、
建設業界ではどのようなことが課題になっている？

課題 .1

深刻な人手不足

10年後にはおよそ80万人が離職



出典：総務省「労働力調査」

若手の数が足りない

高齢者の大量離職と若手入職者の減少（左図）

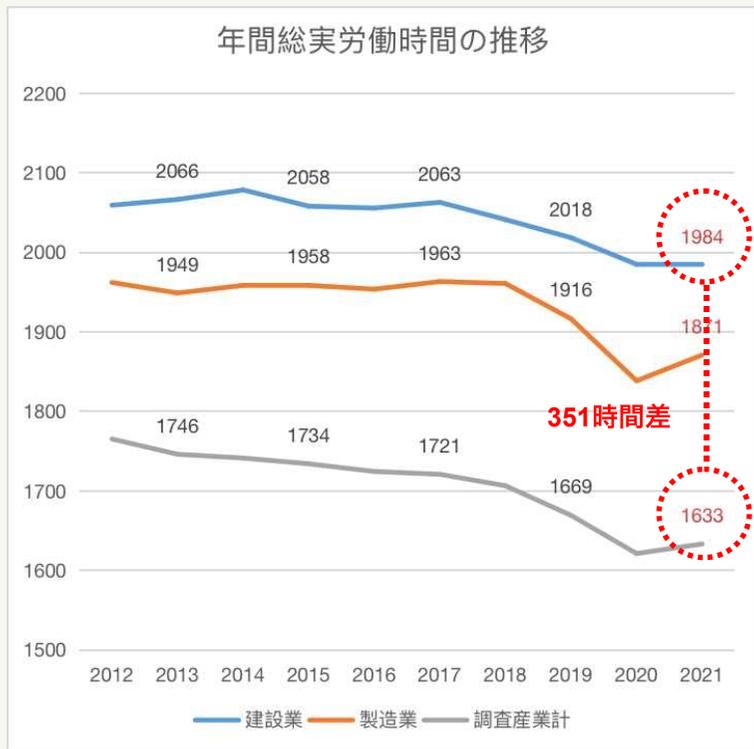
左図の通り、60歳以上の高齢者（81.1万人、24.5%）は、10年後には大量離職が見込まれます。しかし、これを補うべき若手入職者の数は不十分（36.6万人、11.0%）です。現状、日本全体で労働生産人口は減少傾向にあります。これらの理由から建設業界は特にその傾向が顕著に出ています。“ベテランの引退”と“若手不足”は建設業の深刻な課題です。

外国人技能実習生がこない

これまで、ベトナムなどの外国から技術習得のために訪れる「外国人技能実習生」が労働力として機能していました。しかし中国など他国の建築技術レベルが向上し、日本ではなくそちらへ学びに行く外国人技能実習生が増えている影響で、その数は年々減少傾向にあります。このことも働き手が減少している要因のひとつです。

課題 .2

長時間労働、少ない休日



出典：厚生労働省「毎月勤労統計調査」年度報より筆者作成

平均よりも“350時間”も多い（左図）

左図の通り、建設業は全ての産業の平均を表す調査産業計より年間350時間も多く働いています。製造業と比較しても100時間以上の差が開いており、これらの傾向は10年前から変わっていません。こうした長時間労働も建設業が解消すべき課題のひとつです。

カレンダー通りの休日取得もできていない（下図）

2021年11月休日取得日数

カレンダー	全体	内勤	外勤
10日	8.8日	9.6日	8.0日

出典：日建協「2021時短アンケートダイジェスト発刊」より筆者作成

ここまでのまとめ

- 関連法の適用によって、これまでのような長時間労働はさせられない
- 違法になる恐れがある他、支払うべき賃金も以前より多くなっている
- でも、人は不足している
- 人が不足しているから長時間労働になり、休みも取れない
- しかし、関連法の適用は2024年に迫っている



早急に、働き方を変えなくてはいけない = 2024年問題

国土交通省が提唱する

建設業働き方改革加速化プログラム

2024年の働き方改革関連法の適用に向けて、先ほど挙げたような課題を解消するために、国土交通省は「建設業働き方改革加速化プログラム」というものを提唱しています。労働環境や給与待遇などの改革が主な内容のプログラムです。このプログラムは以下の3点が要旨となっています。 出典：国土交通省「建設業働き方改革加速化プログラム」を参照

長時間労働の是正

- ・ 週休2日制の導入の後押し
- ・ 各発注者の特性に合わせた適切な工期設定の推進

給与・社会保険

- ・ 技能や経験にふさわしい処遇（給与）の実現
- ・ 社会保険加入を建設業のミニマム・スタンダードに

生産性向上

- ・ 生産性の向上に取り組む企業を後押し（ICT活用）
- ・ 仕事を効率化
- ・ 限られた人材・資機材の効率的な活用を促進
- ・ 重曹下請け構造改善のため下請け回数削減方策を検討

生産性の向上を叶えるためには

では、建設業の生産性向上を叶えるためには、どうすればいいのでしょうか？ 国土交通省が下請け次数削減方策の検討など様々な施策を実施してくれますが、生産性向上の肝となるのは企業の「仕事の効率化」です。業務効率化や資源の効率的な活用を通じて、“少ない資源”で“より多くの成果”を生み出す仕組みを作り、生産性を底上げする必要があります。そして、その様々な効率化に役立つのが「ICT活用」です。

生産性向上の肝は **効率化**

ICT活用 が重要

生産性向上

- 生産性の向上に取り組む企業を後押し（ICT活用）
- 仕事を効率化
- 限られた人材・資機材の効率的な活用を促進
- 重曹下請け構造改善のため下請け次数削減方策を検討

建設DXの処方箋 “クラウド型オフィスの活用”

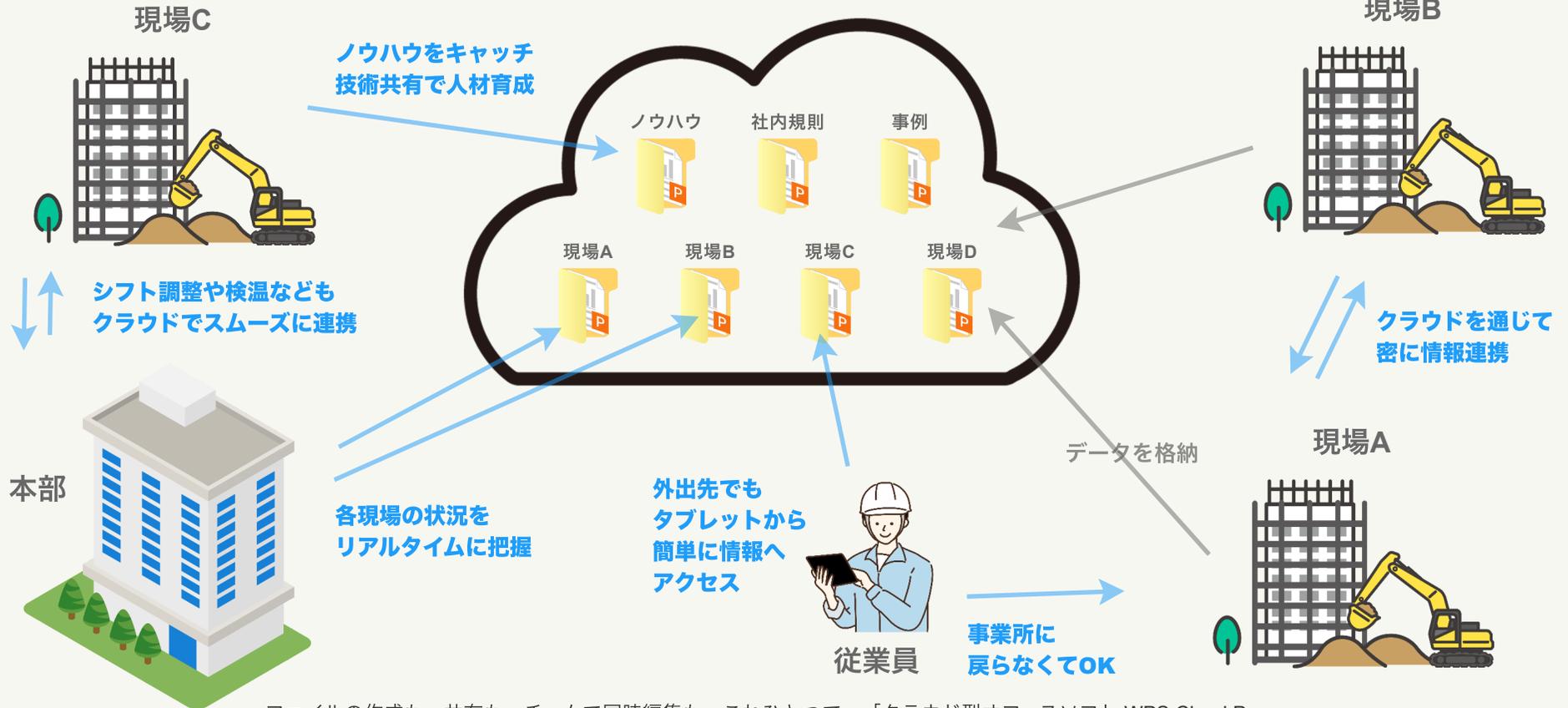


手軽にデータを共有できるクラウド型オフィス

クラウド型オフィスとは、クラウドで利用できるオフィスソフトのことです。文書作成や表計算、スライド作成などのオフィスアプリをクラウド上で利用できます。最大の特徴は、共有性に優れている点です。クラウド型オフィスでは、ファイルやデータを端末ではなくクラウドに保存します。クラウドには社内の様々なデバイスやアカウントからアクセスが可能できるので、場所や端末、時間に左右されることなく、データの編集や閲覧が行えます。例えば、本来は事業所のサーバー内に格納していたような図面などのデータも、現場のタブレットから手軽に閲覧できます。

クラウド型オフィスの建設DXイメージ

クラウドで様々なデータを一元管理



ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。「クラウド型オフィスソフト WPS Cloud Pro」

クラウド型オフィスによる建設DXのbeforeとafter

before

資料の修正が必要に！ 仕方なく現場から事業所に戻って対応。長時間労働の原因に...

紙の資料を取りに戻るために現場から事業所へ...。紙も移動時間ももったいない。

培われたノウハウやナレッジが本部にのみ蓄積され各現場まで十分に共有できていない。

現場間で情報の連携や共有ができてない、もしくは共有するにしても酷く手間がかかる...

NASデータのバックアップや容量不足への対応に担当者リソースが奪われる...データ破損のリスクも



after

ノートPCを使って自宅でも対応、直行直帰を実現し、ワークライフバランス確保&労働時間の短縮

外出先でもタブレット等で資料確認が可能。PDF・表計算ソフトで、図面や工程管理を確認！

クラウドを使い、各現場で蓄えた経験や技能を簡単に共有。人材育成に効果を発揮し、組織力UP！

クラウドにアップロードするだけで簡単共有。竣工後データなどを集約し、情報を無駄なく活用！

システム上で一括管理ができるので容量調整も楽々。現場でのNAS破損といったデータ保護リスクもなし

優れたコストパフォーマンスと機能性を誇るクラウド型オフィス



WPS Cloud Proは、法人向けクラウド型オフィスです。クラウドストレージとオフィスアプリケーションが一体となったソリューションで、文書作成や表計算、PDF編集などビジネスに欠かせないオフィスアプリはもちろん、大容量のクラウドストレージ機能も付帯。加えて、組織の資産管理をサポートする「組織管理コンソール」も基本機能として備えています。**ライトプランは1ID300円から**。コストと機能の両立を実現した新しいクラウド型オフィスです。

ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。「クラウド型オフィスソフト WPS Cloud Pro」

WPS Cloud Proの主な機能



文書作成



表計算ソフト



スライド作成



PDF閲覧・編集



クラウドストレージ



共同編集



組織管理コンソール

ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。「クラウド型オフィスソフト WPS Cloud Pro」

WPS Cloud Proで実現する、 建設DXの“生産性向上”と“人材育成”

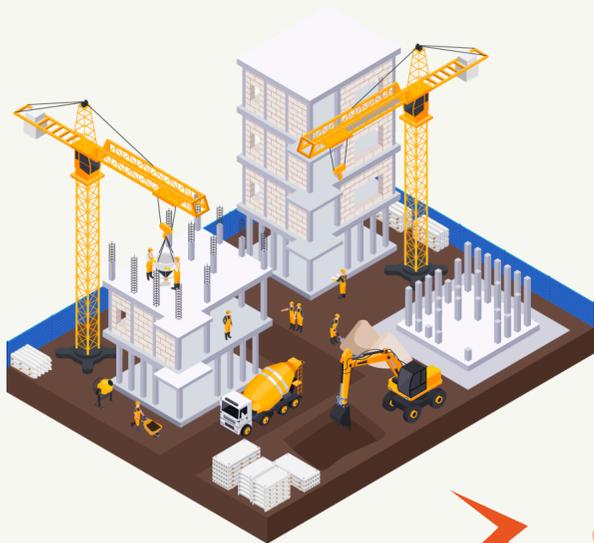


WPS Cloud Pro

ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。「クラウド型オフィスソフト WPS Cloud Pro」

生産性向上

現場業務の効率化



いつでも、どこからでも。シームレスな情報連携

WPS Cloud Proは、Webブラウザ・デスクトップアプリ・モバイルアプリから利用できます。**マルチデバイス対応なので、PCはもちろんタブレットやスマートフォンでも使用可能です。**データ共有は、クラウドにファイルをアップロードして相手に共有リンクを送るだけでOK。クラウドへのアクセスはどの端末でも可能、かつデータの閲覧や編集もクラウド上のできるから、資料を取りに現場から事務所へ戻ったり、事務処理のために現場帰りに事務所へ寄ったりする必要がありません。移動時間が削減され、その浮いた分の時間を他の業務に充てることができ、生産性が向上します。**また、工程管理の関係で発生する「作業待ち時間」の有効活用ができることもポイント。**ただ待っていることしかできなかったあの時間も、タブレットを使って書類作成やデータ処理を進める時間に変えられます。いつでも、どこからでも、クラウドを活用してシームレスな情報連携を実現。現場業務の効率化を力強くサポートします。

生産性向上

システム管理の負担低減

組織管理コンソールでシステム全体を一括管理

WPS Cloud Proにはシステム全体の設定を一括で行える「組織管理コンソール機能」が付いています。**買い切り版だと手間がかかるライセンス管理もシステム上で簡単に行え**、ストレージの分配なども可能です。加えて「社外アクセス制限」や「操作ログ抽出」といったセキュリティ機能も充実しており、安心安全なツール環境を手軽な操作で実現いただけます。

常に最新のバージョンが利用できる

WPS Cloud Proはクラウドソリューションなので、ユーザーは常に最新バージョンを利用できます。システム担当者の方が、バージョンアップやそれに伴う不具合などに対応する必要はありません。**加えて、契約期間中はサポートも無期限です**。サポートの期限切れを憂慮することなく、本来の業務に集中して取り組んでいただけます。



人材育成

“ナレッジマネジメント”で人材育成&組織のスキルUP



ベテランの技術を次世代の若手に託す

企業に蓄積された「ベテランの技術」は、次世代の若手を育成するために非常に重要です。こういった技術は言語化が難しく共有する難易度が高いため埋もれがちですが、**WPS Cloud Pro**なら、資料の作成から共有までひとつのツールで完了します。また、過去に対応した案件のアーカイブやうまくいった事例の共有などもクラウドを通じて簡単に行えます。

企業または所属する個人が蓄えてきた「知見」や「経験」を企業として有効活用する取り組みを“ナレッジマネジメント”といいます。この取り組みによって技術継承や成功事例の共有を実現することで、次世代の担い手となる人材の育成はもちろん、**組織全体のスキルの底上げ**といった面でも大きな効果が期待できます。

システムの入替えは数ヶ月かかることも。 2024年に向けて早めの準備を

2024年4月に向けて、すでに働き方改革を実行に移されている企業も多いかと思います。一方で、本来の業務が忙しく、2024年問題を自覚しつつも対応を実施できていない企業も一定数いらっしゃるのではないのでしょうか。働き方改革、中でもDX推進に役立つICTの活用はシステムの導入や入れ替えに数ヶ月の時間を要する場合があります。2024年はずっと先のことも感じられますが、これらの対応に必要な期間からスケジュールを逆算してみると残された時間は意外に少ないものです。また、2023年には「時間外労働の割増賃金率引き上げ」も迫っています。

ITシステムの導入は、事前に検証を行うことが必須です。その上で新規導入やシステムの入替え、既存システムとの連携を行います。実際の導入はずっと先のことでも、早め早めで検証を進めておくことはスムーズなDXのために非常に有効です。来るべき2024年に向けて、早めの準備を行うことが今後の企業の成長や経営を大きく左右します。



お問い合わせ

WPS Cloud Proにご興味をお持ちいただけの方は、下記のお問い合わせフォームから、お気軽にお問い合わせください。費用のお見積りや導入のご相談など、様々なお問い合わせを承っております。専任の担当者が貴社に最適な活用方法を提案させていただきます。また、詳細な機能概要や料金プランについてまとめた製品資料も、この機会にぜひダウンロードください（無料）。



WPS Cloud Pro公式サイト

<https://biz.wpscloud.jp/>

お問い合わせフォーム・・・・・・・・・・ <https://biz.wpscloud.jp/contact>

無料トライアルお申し込み・・・・・・・・ <https://biz.wpscloud.jp/trial>

製品資料DLフォーム・・・・・・・・・・ <https://biz.wpscloud.jp/document>

必要なクラウドを、必要な分だけ選べる、クラウドソリューション

Wonder Cloud Works



WowTalk



WPS Cloud Pro



「Wonder Cloud Works(ワンダークラウドワークス)」はビジネスチャット「WowTalk」、クラウド電話帳「CAMCARD BUSINESS」、クラウド型オフィスソフト「WPS Cloud Pro」の3サービスを統合した製品です。Wonder Cloud Worksを活用すれば、クラウド型オフィスソフトにプラスして、名刺情報管理やチャット機能などをシームレスに利用でき、業務のさらなる効率化を図ることができます。

＼製品資料のダウンロードや、お問い合わせはこちらから／

<https://www.wondercloudworks.jp/>

Wonder Cloud Works 公式サイト

ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。「クラウド型オフィスソフト WPS Cloud Pro」

働き方を自由にするオフィスクラウド



WPS Cloud Pro